

センターだより

第84号
令和7年12月19日 発行

「あおもり教育研究発表会2025」の様子

11月14日（金）に「あおもり教育研究発表会2025～未来につなぐ青森の教育～」が開催されました。

当日の参加やオンライン、オンデマンドでの参加を合わせ110名の方々から申込みをいただき、盛大に開催することができました。

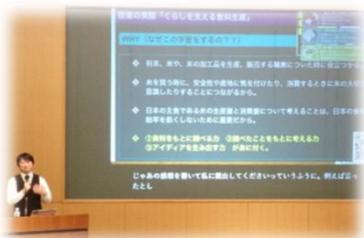
講師の川俣先生をはじめ、発表者、ご来場の皆様、誠にありがとうございました。

今後、研究成果を随時Webページに掲載していく予定です。

【講演会】

「学びのユニバーサルデザイン（UDL）の枠組みによる主体的な学習者の育成」をテーマに、北海道教育大学教職大学院准教授・川俣智路氏に御講演いただきました。講演では、UDLの視点に立った豊富な授業実践を示していただき、多くの発見や刺激を得るとともに、今後の学びを考えるまでの課題意識を高める機会となりました。

来場者アンケートでは、「UDLについて、より深い理解につながりました。」「質疑応答の中で授業UDとUDLとの違いについて取り上げられていましたが、その違いが自分で明確になり、学校現場でどのような考え方ややり方で取り入れられるのか理解を深めることができました。」「とてもわかりやすく、理念から実践までを示してくださいました。内容の充実感もさることながら、デジタルキャンバスを使って研修参加者の声を拾い上げやすくなるという、この講演そのものがUDLの枠組みになっている工夫に感動しました。」といった感想が寄せられました。



川俣 智路 氏

【研究員研究発表】

3名の2年目研究員が研究発表を行い、生徒指導や生成AI、教科指導に関する研究の成果が示され、活発な質疑応答が行われました。

①小学校高学年における心の居場所となる学級づくりに関する研究

－共感的な人間関係育成プログラムの作成と実践を通して－（教育相談課 研究員 中嶋 龍之介）

②小学校中学年における「批判的思考力」の育成に向けた学習プログラムの開発・実践

－児童の深い学びにつなげる生成AIの活用を通して－（産業教育課 研究員 中川原 泰文）

③中学校保健体育科体育分野におけるアダプティッドエコロジカルモデルに基づいた授業実践に関する研究

－生徒の学習観の変容に着目して－（特別支援教育課 研究員 沖沢 都）



【センター研究発表】

「一人一人の子供を主語にする学校教育の実現に向けて」という研究テーマのもと、以下の研究グループ・ユニットが発表を行いました。

◆義務教育課グループ

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る授業の在り方の研究」

◆特別支援教育課グループ

「省察と対話を核とした授業研究モデルの開発～子供の学びの事実を起点とした授業研究の在り方～」

◆高校教育課グループ

【探究的な学びユニット】 「教科における探究的な学びに関する研究」

【特別支援教育ユニット】 「青森県内の高等学校における特別な配慮を要する生徒へのアプローチに係る研究」

【学習評価等ユニット】 「『思考・判断・表現』、『主体的に学習に取り組む態度』の評価方法の検討」

◆高校教育課・産業教育課グループ

【遠隔教育ユニット】 「遠隔授業（講習）による個別最適な学びと協働的な学びの実現」

「生徒の多様な学びを支える遠隔教育の実践について」

◆教育相談課グループ

「グループ・アプローチによる安心できる学級づくりの支援～子供が自分らしくいられる関係性の育成～」



センターセミナーの様子

セミナーI 不登校児童生徒への支援

FR教育臨床研究所 所長 花輪 敏男 氏

7月26日（土）に花輪敏男氏を講師に迎え、これまでの経験を踏まえ教師や家族の具体的な対応をまとめた「FR式不登校対応チャート」を中心に、「不登校児童生徒への支援」というテーマで御講演いただきました。

不登校を怠けではなく心のエネルギー不足と捉え、安心の確保、支援による回復、再登校への準備、登校後のフォローまでを段階的に支える枠組みを紹介していただきました。

【参加者の感想】

- ・不登校の子供には、自分で考え、判断し、自らの足で歩む力を育んだうえで、再登校へとつなげていくことが最善だとも感じました。「親子で話し合うこと」が本人にとってエネルギーとなることを知ることができ、大変参考になりました。
- ・学校と家庭が協力して、対応することの大切さを改めて実感したので、ポジティブに不登校対応していくべきだと思います。



セミナーII もっと聞きたい！ 授業のユニバーサルデザイン Vol.3 ～あらためて「焦点化」を考える～

星槎大学大学院 教授 阿部 利彦 氏

8月23日（土）に阿部利彦氏を講師に迎え、「もっと聞きたい！授業のユニバーサルデザイン Vol.3～あらためて『焦点化』を考える～」をテーマに御講演いただきました。

御講演では、日本各地で取り組まれている具体的な実践事例の紹介に加え、参加された先生方の事前アンケートに寄せられた実践内容もスライドに反映してくださり、「焦点化」を取り入れた授業づくりの多くのヒントを得ることができました。当日は68名の方からアンケート回答をいただき、「実践の参考になった」という声が多く寄せられました。

【参加者の感想】

- ・「焦点化が引き算の美学」というフレーズを大事に授業を行いたい。
- ・「ゴールの焦点化」の重要性について、心に留まりました。授業UDIに関する学びに留まらず、学校組織づくりにも言えると感じました。



全国学力・学習状況調査指導例

令和7年度全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた指導例を、センターHPへ掲載しました。授業づくりのヒントとして、ぜひ活用ください。

指導例の閲覧方法

方法①青森県総合学校教育センタートップページ右下の「リンク」内にある「全国学力・学習状況調査 指導例」のアイコンをクリックする



方法②下記の二次元コードを読み込む



令和6年度全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた指導例

以下の各教科の「指導例」は、令和6年度全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえ、授業の改善・充実を図る際の参考となるよう、授業の一例として、作成したものです。

本調査で見られた課題の解決を図るよう、調査の対象学年だけではなく、学校全体で組織的・継続的に取り組むことが大切です。

各教科の「指導例」が、日々の授業や研修会など様々な場面で広く活用され、児童生徒の学習状況の改善につながることを願っています。

▽小学校 国語 指導例 ▽中学校 国語 指導例
▽小学校 社会 指導例 ▽中学校 社会 指導例
▽小学校 算数 指導例 ▽中学校 数学 指導例
▽小学校 理科 指導例 ▽中学校 理科 指導例
▽小学校 英語 指導例

希望の校種・教科を選択すると、
下記のような指導例が表示されます。

【中学校社会 指導例】

様々な視点を関連付けて考察させる指導

～単元名「日本の諸地域と地域区分」（第2学年）～

中学校・社会

1 学習指導に当たって

本単元は、我が国の国土の地域区分や区分された地域の地域的特色を多面的・多角的に考察し、表現する力を育成することを主なねらいとしている。しかし、資料から読み取った事項を関連付けて考え、表現する力が十分でないことが課題である。

今後の指導に当たっては、様々な視点や既習事項から考察したことを関連付け、生徒同士が交流し、表現することで、「思考力・判断力・表現力等」の育成を図ることが必要である。

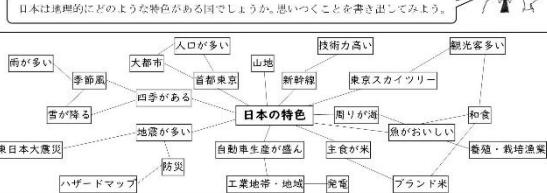
指導例

様々な視点を関連付けて考察させる指導 ～単元名「日本の諸地域と地域区分」（第2学年）～

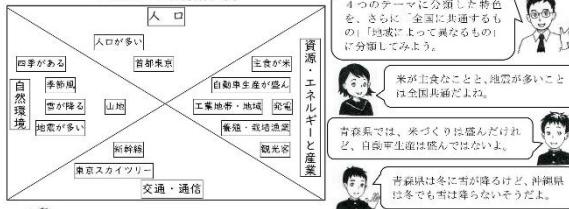
【指導の流れ】

1 単元をよく問い合わせ「日本には、なぜ様々な地域の特色があるのか」に対する仮説を立てさせる。（第1時）

学習活動① ウェビングマップに日本の特色を書き出す。



学習活動② 書き出した特色を「自然環境」「人口」「資源・エネルギー」と「産業」「交通・通信」の4つのテーマに分類する。



ポイント

単元をよく問い合わせする仮説を立て、その仮説を裏付け説明するための地域区分図を1テーマにつき1つ作成することや、単元末に各テーマで作成した地域区分図を関連付けて、日本の特色を説明するレポートを作成することを伝えることで、単元全体の見通しをもたらせる。

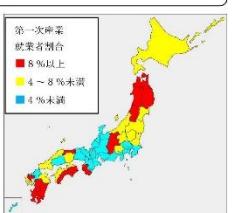
2 テーマごとの授業で、右表の視点から「日本にはどのようない地域的特色がどのように分布しているか」を捉えさせる。（第2時～第8時）

学習活動 仮説を裏付けるためには、各テーマでどの視点から地域区分図を作成すればよいのかを検討し、決定した視点に沿って作成する。地域区分図作成に必要な情報を収集する。

3 日本の地域的特色を分かりやすく説明するために必要な地域区分図を決め、作成させる。（第9時）

学習活動① ベア（グループ）で、表中の4つの○のうち、「説明したい特徴の地域区分図」を○にして、◎●の地域区分図を作成する。（ICT、無料Webアプリ「白地図ぬりぬり」を使用する）

わたしたちのベア（グループ）は「愛人人口構成（都道府県別の平均年齢）」と「第一次産業（就業者数の割合）」の地域区分図を作成しました。



学習活動② ベア（グループ）ごとに作成した地域区分図を関連付けて説明を発表する。

2つの地域区分図から、どんなことが考えられますか。
第一次産業に從事している人の割合が高い地域（●ほど、平均年齢が高い（◎ほど）傾向があると考たれます。）

ポイント 時間があれば、2つの地域区分図を重ね合わせたオリジナルの地域区分図を作成させてもらいながら、作業で終わらず、作成したオリジナルの地域区分図を分析したり考察したりすることを重視し、思考・表現（発表）させる。

4 日本の地域的特色を説明するレポートを作成させる。（第10時）

日本には、なぜ様々な地域的特色があるのでしょうか。他のベア（グループ）が発表した内容も参考にして、レポートを作成しましょう。

学習活動 単元をよく問い合わせ「日本には、なぜ様々な地域的特色があるのか」を説明するレポートを作成する。自分が地域区分図を関連付けて考察した内容と他のベア（グループ）が発表した内容等を基にして、一人一台端末を用いて作成し、提出する。